

第61回全国切手展 JAPEX2026 誌上予告!

企画出品

『発行150年記念「小判切手展」』

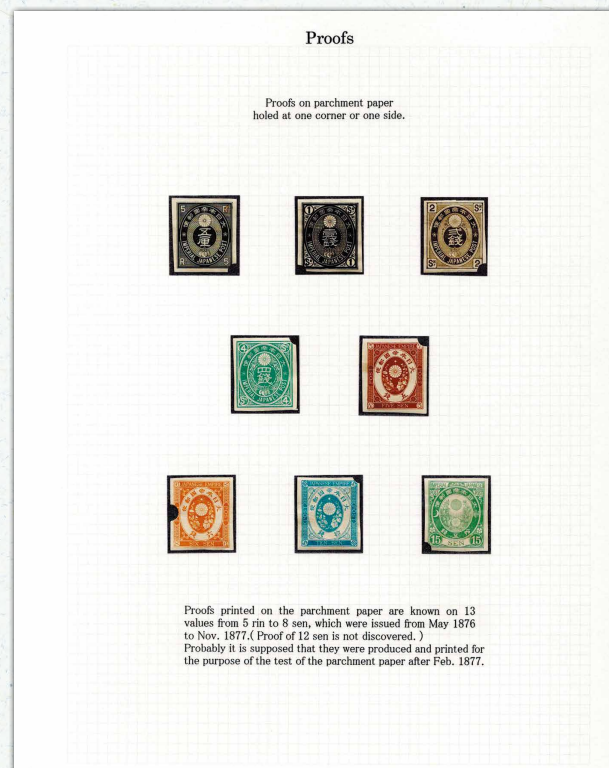
『JAPAN“OLD KOBAN”
SERIES 1876-1879』
(設楽光弘氏)より

右：これまでに2組が確認されているブルーフ11種のうちの1リーフ。

下：Type II (B) 銘版。4 銭、20 銭の完全銘版は唯一の例。50 銭は2 点が確認されている。

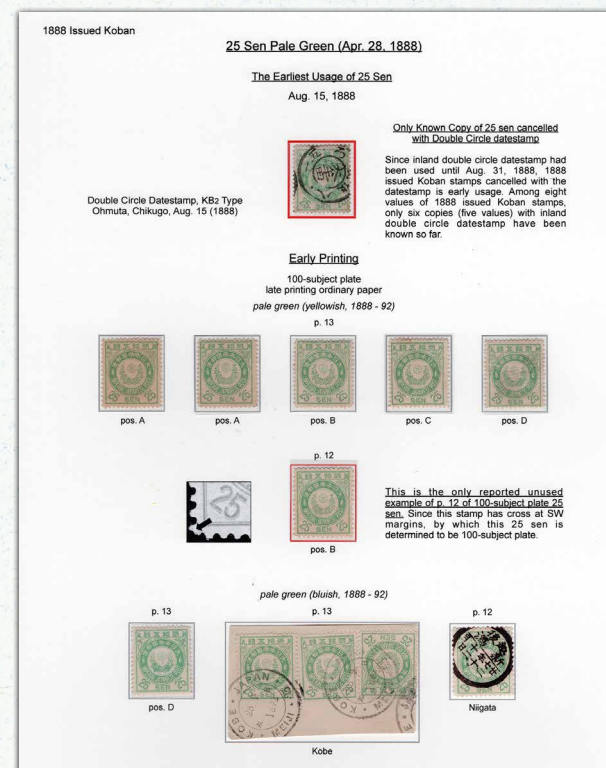
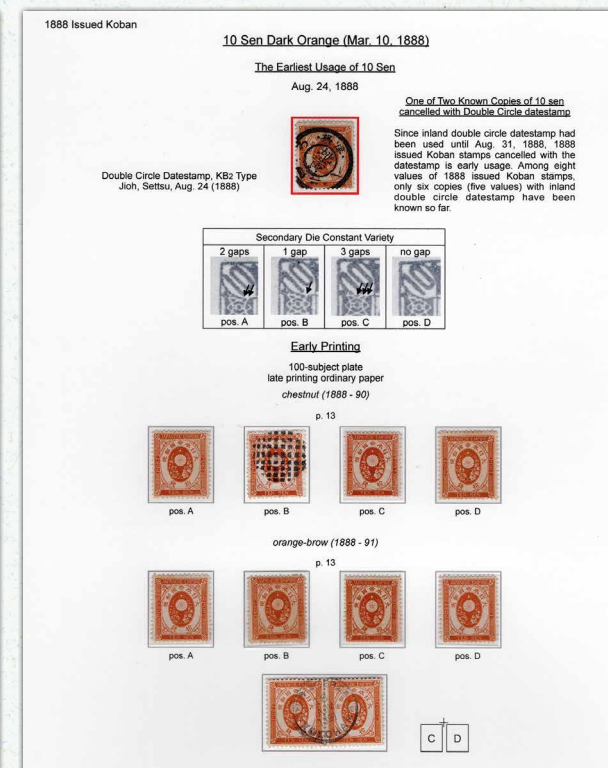
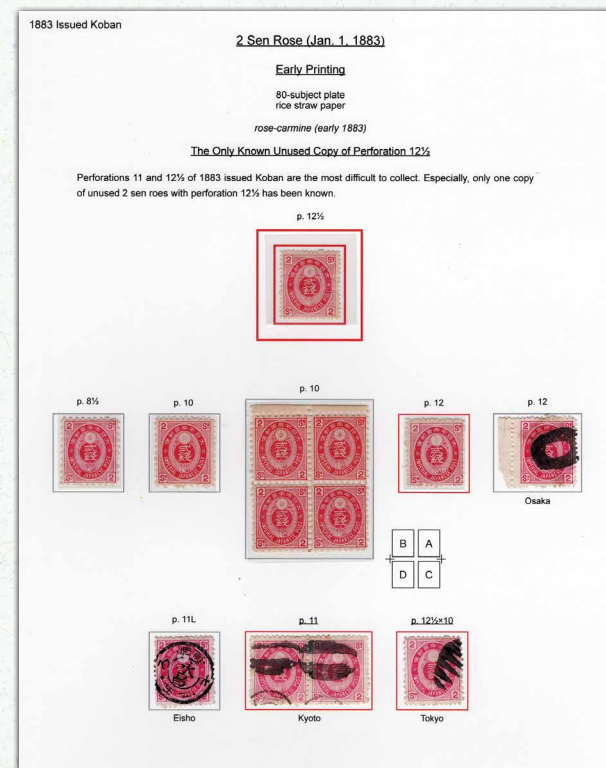
右下：4 銭木綿紙貼カバー。隠岐崎村KG消(左)と、那覇DK消(右)のカバー。

※その他、主だったマテリアルは本誌2026年1月号カラー特集の解説を参照ください。



10月30日(金)～11月1日(日)の3日間、浅草の東京都立産業貿易センター台東館で開催される JAPEX2026。注目を集める企画出品『発行150年記念「小判切手展」』&『日・フィリピン国交正常化70周年「フィリピン切手展」』について、その見どころを会場での展示に先駆けて紹介します。(編)

※開催案内については76ページをご覧ください。



『UPU小判・新小判切手』
(山田廉一氏)より

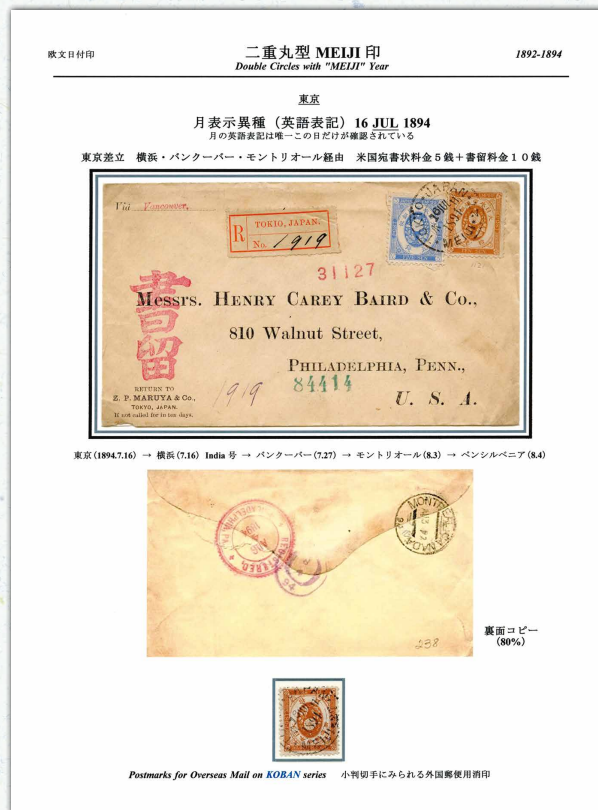
UPU小判・新小判13額面の伝統郵趣作品。代表的なページとして、UPU小判2 銭(左上)、新小判10 銭(上)と25 銭(左)の製造面に関する3 ページを紹介。

左上：UPU小判2 銭初期印刷の1 ページ。UPU小判の目打で最難関は12 1/2。上段の目打12 1/2未使用は1 点のみの確認。

上：新小判10 銭初期印刷の1 ページ。上段の二重丸印は最初使用例で、この額面の二重丸印は2 点のみが知られる。

左：新小判25 銭初期印刷の1 ページ。上段の二重丸印は最初使用例で、この額面の二重丸印は1 点のみが知られる。

『発行150年記念「小判切手展」』



『小判切手に見られる外国郵便局消印』
&『小判切手に見られる外国局消印』
(小寺雅弘氏)より

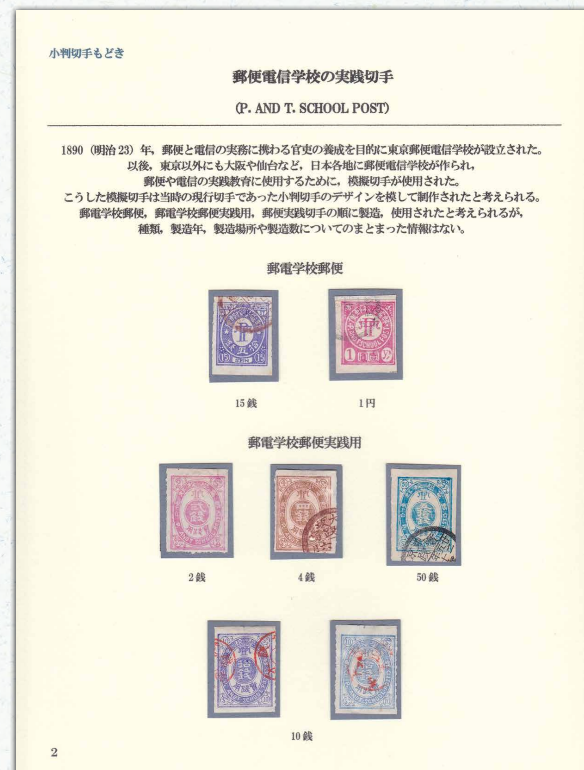
左上：白抜イニシャル印(神戸)最後のタイプの経年変化を示し、最終使用日のカバーを展示。

上：現在までに1日だけ確認されている二重丸型MEIJI印(東京)の月表示異種(本来「VII」のローマ字表記となるべきところ、「JUL」の英語表記)のカバー。

左：「貴婦人」の愛称をもつフランス船内で抹消された「フランス船内印」が押された単片やペアなど。



U・新小判13額面のすべてに存在するストラチャン商会の穿孔揃い。「S」の後のピリオドの有無で96穴(横浜支店)と97穴(神戸支店)がある。横浜が少なくとされ、展示はすべて横浜使用。



郵便と電信に携わる官吏の養成を目的に設立された郵便電信学校で使用された模擬切手。小判切手を模して制作され、最初が郵便学校郵便、2番目が郵便学校郵便実践用と考えられる。



華俄道勝銀行の押印「RCB」がある新小判切手の単片とエンタィア。展示以外では25銭が確認されている。穿孔同様、押印のある小判切手のエンタィアは少ない。



上・旧小判45銭が描かれた第二回郵便切手展覧会記念絵葉書(大正15年)、下・UPU小判1・2・5銭が描かれた万国郵便連合加盟50年記念絵葉書(昭和2年)。ともに東京郵楽会発行。



企画出品

『日・フィリピン国交正常化70周年 「フィリピン切手展」』

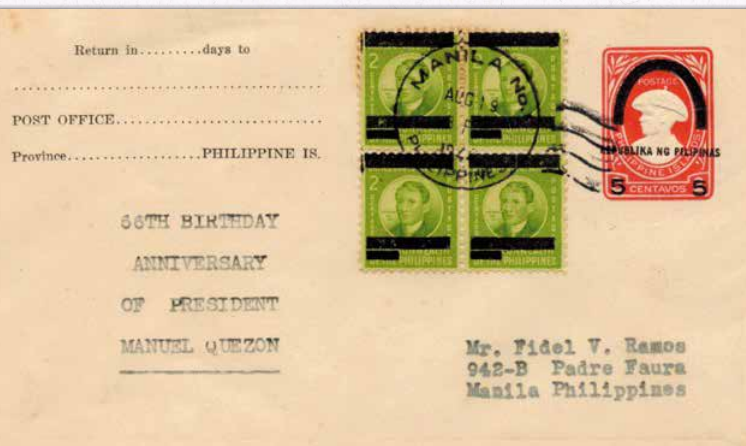
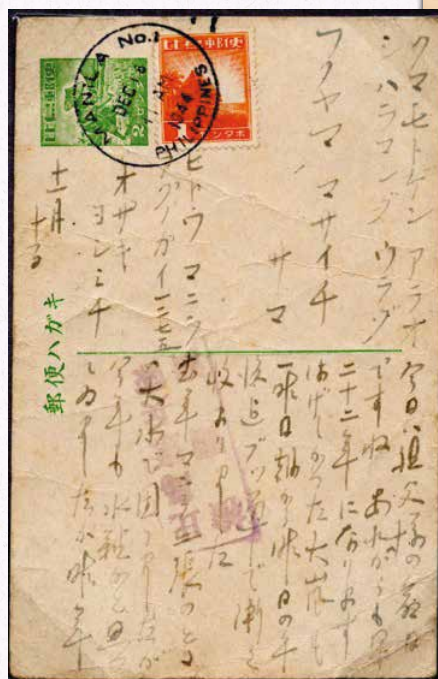
『セブ・ゲリラ切手、ミンダナオ・ゲリラ切手、1943 Free Philippines Guerrilla Stamp, Its Usages』
(竊木 顕氏)より

▶今年5月のボストン展出品後に入手したカバーで、ミンダナオ・ゲリラ切手の最後期使用例。1945年8月11日APO159差し出しの米国宛カバー。ボストン展の作品には、最後期使用例として8月6日の使用例を入れていたが、これを更新したカバーとなる。



◀セブ・ゲリラ切手の知られている実通使用例2通のうちの1つで、南セブ軍の本部から戦場の将校宛に託送されたもの。このカバーを受け取った旨を証する1947年1月2日付けの将校の署名が右下にある。

『日本占領フィリピンの
民間外国郵便』(竊木 顕氏)より



『1935 Japan-Philippines Amity Flight to Manila
(昭和10年日比親善マニラ訪問飛行)』(竊木 顕氏)より

▲日本占領下で様々な記念カバーが作成されたが、これはケソン大統領の66才の誕生日を祝うカバー。しかし、ケソン大統領は誕生日直前の8月1日に亡くなり、66歳を迎えることはなかった。このカバーを作成した、Fidel V. Ramos氏は当時、PPC (フィリピン・フィラテリック・クラブ) のジュニア部会長を務めるなど若手収集家として活躍、のちにフィリピン共和国大統領(1992-1998)となった。

◀1944年後半になると連合国の反攻で、制海権、制空権が奪われ、日本宛の郵便物はほとんど届かなくなった。この葉書は1944年12月16日にマニラ差し出しの日本(熊本県荒尾市)宛で、日本に届いた最後の郵便物と考えられる。



『極東選手権競技大会』
(内藤陽介氏)より

▶1934年、マニラで開催された第10回極東選手権競技大会に際して、開催国のフィリピンが発行した記念切手3種貼のカバー。マニラから香港経由バンコク宛。



『フィリピン航空書簡1947-1984』(虎頭雄彦氏)より

左・1947年発行のフィリピン最初の航空書簡FDCなど、右・1975年発行航空書簡の印刷もれエラー。

